

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 5 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	河田美智子
研究課題	自己決定理論に着目した退屈の予防・低減策の検討				
研究キーワード	退屈、内発的動機づけ、自己決定理論、アクティブラーニング	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	4.質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

過大負荷に起因するバーンアウトやワーカホリズムに関する研究に比べ、過少負荷に起因する退屈研究は圧倒的に乏しい。2024年度は、仕事における退屈とワーク・エンゲイジメントが、異なる先行要因を有しており、アウトカムであるウェルビーイングと組織アウトカムに対して反対の関連を有していることを実証した国際論文（筆頭）が掲載された。このほか、仕事の要求度と顎関節症との関連の検証、インドネシアで使用できるリカバリー経験尺度の開発、笑いとワーク・エンゲイジメントおよびワーカホリズムとの双方向の関連の検証など、産業保健心理学領域において国際共著論文4本が掲載された。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

- ① Kawada, M., Shimazu, A., Miyanaka, D., Tokita, M., Sakakibara, K., Mori, N., Hamsyah, F., Lin Y., Shojima, K., Schaufeli, W. B. (2024). Boredom and engagement at work: Do they have different antecedents and consequences? *Industrial Health*, **62**, 110-122.
- ② Mori, N., Miyanaka, D., Tokita, M., Kawada, M., Sakakibara, K., Hamsyah, F., Lin, Yuheng., & Shimazu, A. (2024). Job demands and temporomandibular disorders: Mediating and moderating effects of psychological distress and recovery experiences. *Journal of Occupational Health*, **4**;66(1):uiad001.
- ③ Hamsyah, F., Miyanaka, D., Tokita, M., Kawada, M., Mori, N., & Shimazu, A. (2024). Validation of the Indonesian version of the Recovery Experience Questionnaire. *Industrial Health*, **62**, 90-101.
- ④ Shimazu, A., Sakakibara, K., Hamsyah, F., Kawada, M., Miyanaka, D., & Tokita, M. (2024). How changes in laughter predict work engagement and workaholism: Reciprocal relationships among Japanese employees. *Industrial Health*, **62**, 392-401
- ⑤ Shimazu, A., Sakakibara, K., Hamsyah, F., Kawada, M., Miyanaka, D., Mori, N., & Tokita, M. (2024). Frequency of laughter and work engagement among Japanese employees: A cross-sectional study during COVID-19. *Industrial Health*, **62**, 203-208.

【学会発表等】

- ① 榊原圭子・時田征人・Fuad Hamsyah, 河田美智子・宮中大介・島津明人 (2024) メンタリングとワーク・エンゲイジメントの関連性：年代別での検討, 産業ストレス研究, **32**(1), 127. 2024年12月13日(ウインクあいち).

- ② 宮中大介・榊原圭子・Fuad Hamsyah, 河田美智子・時田征人・島津明人 (2024) ビッグファイブ性格特性とワーク・エンゲイジメントとの関連～在宅勤務労働者と非在宅勤務労働者の比較, 産業ストレス研究, 32(1), 128. 2024年12月13日(ウィンクあいち).

3. 主な経費

- ・研究に関わるデータ分析や書籍・論文執筆のためのノートパソコン購入+長期保証費用。
- ・学術情報収集と研究発表のための2つの学会の年会費（産業組織心理学会、産業ストレス学会）。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

- ・研究活動スタート支援：令和6年度～7年度、研究代表者、課題名「仕事における退屈(Boredom at work)の測定と、その予防・低減に有効な方策の提案」（課題番号： 24K22811）

(本文は2ページ以内にまとめること)